

極域のオープンデータ・オープンサイエンスに関する研究集会 -II

日 時： 2019年（令和元年）8月27日（火） 10:30～18:30

場 所： データサイエンス棟 1F 共通作業スペース（オープンスペース）

概 要： オープンデータ・オープンサイエンスに関する最新の国内外の状況を踏まえ、極域科学に関連するデータ活動の情報交換を行う。特に極域関連データベースやデータシステム、及びその公開手法、またデータ共有（相互利用）・データ出版・データ引用・データジャーナル等について、現状と課題・問題点や将来計画、極域科学研究の進展に望まれる機能等についての議論を行う。また、極域の多様なデータセットを利用したデータサイエンスの研究成果について紹介し、極域科学の各分野におけるデータ関連研究の現状について相互理解を深めると共に、近未来の展望について意見交換を行う。

プログラム：

（所属：記載無しは、全て極地研）

10：30～ はじめに：集会の主旨と概要

金尾政紀

10：35 - （各15分以内、質疑応答を含む）

進 行：門倉 昭・金尾政紀

- 極域環境データサイエンスセンターの活動紹介 門倉 昭
- 極域データの国際連携と学術データベース 金尾政紀
- Asia-Oceania 地域における WDS の活動と極域データ 渡邊 堯 (WDS-IPO)
- 統合データサイエンスプラットフォームの現状と今後の計画
田中良昌
- 北極データアーカイブス (ADS) 矢吹裕伯
- ADS における可視化アプリケーションの構築とデータ共有について
杉村剛

12：15 - （昼 食）

13：00 - （各15分以内、質疑応答を含む）

進 行：矢吹裕伯・田中良昌

- 南極インフラサウンド観測データ収録公開システムの構築
（DS 公募型共同研究課題） 山本真行（高知工科大）
- 昭和基地宇宙線観測データのためのリアルタイム・アーカイブシステムの構築
（DS 公募型共同研究課題） 加藤千尋（信州大）・片岡龍峰
- 昭和基地 1-100Hz 帯 ELF 磁場波形データの共有と可視化
（DS 公募型共同研究課題） 佐藤光輝（北大）
- 南極岩石試料レポジトリの確立とデータサイエンスへの応用のための取り組み
（DS 公募型共同研究課題） 馬場壮太郎（琉球大）・外田智千

- 昭和基地地震観測網を用いた機械学習による震源決定法開発
(DS 公募型共同研究課題) 坪井誠司 (JAMSTEC)
- 機械学習による NOAA/AVHRR 衛星画像データを用いた降雪をもたらす雲の特徴検出
(DS 公募型共同研究課題) 鈴木香寿恵 (法政大)
- 固体地球科学データの相互利用・統合解析に関する諸問題
(DS 公募型共同研究課題) 名和一成 (産総研)
- データ駆動型研究を促進させる賛同型コンソーシアム形成に係る基盤研究
(DS 公募型共同研究課題) 梅村宜生 (ISEE)・田中良昌
(休 憩)

15 : 15 - (各 15 分以内、質疑応答を含む) 進 行 : 西村耕司・金尾政紀

- 気象庁の観測データについて
田中恵信 (気象庁)
- 情報通信研究機構における電離層定常観測データについて
前野英生 (NICT)
- 国土地理院における南極地域観測とデータ提供
南 秀和 (地理院)
- アイスコア試料・低温室保管試料に関するデータベース
石田依子
- 南極昭和基地大型大気レーダー (PANSY)
西村耕司
- JARE データの扱いについて
矢吹裕伯
- 極域科学データライブラリーシステム
岡田雅樹
(休 憩)

17 : 15 - (各 15 分以内、質疑応答を含む) 進 行 : 金尾政紀

- アーカイブ室資料データベース・
情報図書室学術情報レポジトリ
工藤 栄
- Polar Data Journal によるデータ出版の現状について
門倉 昭
- "Polar Science" の現況とオープンアクセスの課題
山内 恭
- 総合討論 (30 分程度、今後の展望、意見交換、等)

18 : 30- 19:30

懇親会 (於 : データサイエンス棟 1 F、会費 1,000 円)